外崎覺（そとざき かく）　史學者、漢詩人。安政六年六月二十一日陸奥國生れ、昭和七年八月十八日歿（一八五九―一九三二）。舊姓工藤、字子仁。別名工藤覺、工藤覺藏、外埼覺。號拙居、拙居々士、拙々居士等。

著書、川村榴窠著『榴窠遺稿』（小笠原精一共校・今敬一編、手塚元瑞編、明治十八年九月青森・川村善一刊）、『徳川十五代史中津輕の條を辯論するの書』（明治二十六年九月二十九日青森・内藤邦衛刊）、『路雲游記　附詩　三日一山游記』（内題「路雲游記　三日一山游記」外山拙居名、明治二十二年七月十五日自刊、吉川半七發賣）、『永懷錄―他山工藤先生二十年祭紀念』（編、明治四十二年八月二十日自刊）、『贈正四位清河八郎』（内題「宮内省御編　殉難錄卷之五十　纂清河正明」大橋義共著、明治四十五年五月山形・齋藤治兵衛正義謄本）、『六十有一年』（大正十一年六月一日外崎浩刊）、『燔餘存稿』（昭和四年八月十日外崎浩刊）、『神社對宗教』（合著・加藤玄智編、昭和五年五月十五日明治聖德記念學會、大鐙閣發賣）、『七十有一年』（昭和六年六月二十日外崎浩刊）等。